

## 平成16年度病害虫発生特殊報第3号

岡山県病害虫防除所  
平成16年10月12日**病害虫名:** えそ輪紋病

[病原ウイルス; Iris yellow spot virus (IYSV)]

**作物名:** トルコギキョウ**初発生確認月日:** 平成16年6月29日**初発生場所:** 美星町、高梁市**発生の状況及び特徴:**

平成16年6、7月に美星町3圃場、高梁市1圃場で、ハウス栽培のトルコギキョウの葉にえそ斑点及びえそ輪紋、茎にえそ斑を生じる病害が確認された。九州沖縄農業研究センターにRT-PCRによる検定を依頼した結果、Iris yellow spot virus (IYSV) によるえそ輪紋病であることが明らかとなった。

本ウイルスによる病害は、国内では平成8年に千葉県のアルストロメリアで発生したのが最初であり、その後は佐賀県、千葉県、静岡県、大分県、長野県、福岡県、高知県、神奈川県、埼玉県のトルコギキョウ、アルストロメリア、ニラ、ユーチャリスで発生が確認されている。本県でのIYSVによる病害の発生はこれが初確認である。

**病徴:**

葉の黄化、えそ斑点、えそ輪紋、茎のえそ斑、花卉の斑入りなどの症状がみられる。生育初期は葉にえそ斑点、大型のえそ輪紋を生じ、着蕾期前後には生長点付近の葉が小型化して、黄化を伴うえそ斑点を生じ、株全体が萎縮する傾向がみられる。

(病徴写真)



左上、左下: 葉のえそ輪紋

右: 葉のえそ斑点



茎のえそ斑



花卉の斑入り

**病原のウイルスの生態:****(1) ウイルスの伝播:**

本ウイルスはネギアザミウマによって媒介され、一度ウイルスを獲得した個体は終生ウイルスを伝搬する(永続伝搬)。ミカンキイロアザミウマなど他のアザミウマによる伝搬は確認されていない。土壌伝染、種子伝染、管理作業による汁液伝染の有無については不明である。

**(2) ウイルスの宿生範囲:**

ウイルスの宿主範囲(海外での情報を含む)

リンドウ科: トルコギキョウ

アルストロメリア科: アルストロメリア

ユリ科: タマネギ、ニラ、リーキ、バルビネ(ビルバオ)

ヒガンバナ科: アマリリス、ユーチャリス、クリピア(クンシラン)

アヤメ科: ダッチアイリス

ヒコ科: センニチコウ

**ネギアザミウマについて:**

ネギアザミウマはネギなどのユリ科植物以外にも広範に寄生する。体長は1.1～1.6mm、体色は黄色～褐色と変異がみられ、一般に夏期は淡色系、冬期は暗色系が多い。露地ではネギ、タマネギ、ニンニクなどの栽培作物やノビルなどの雑草で非休眠態の成虫で、また暖地では一部幼虫で越冬する。発生の最盛期は6～9月で、高温少雨の気象条件で発生が多い。

**防除対策:**

- (1) 本ウイルスを伝搬するネギアザミウマの防除を行う。防除は薬剤防除(岡山県農作物病害虫等防除指針参照)だけでなく、施設では以下の耕種的防除も行う。
  - ・施設の出入口やハウスサイドなどの開口部には、防虫ネット(1mm目以下)を張って成虫の侵入を防ぐ。
  - ・反射マルチ資材や紫外線カットフィルムを利用する。なお、紫外線カットフィルムは植物によっては花色に影響が出る可能性がある。
  - ・防除しにくい蛹を殺すためにハウスの蒸込みを行う。蒸込みは夏は7～14日、春秋は14日程度行う。蒸し込み時に湛水を併用するとより効果的である。
- (2) 周辺の雑草はウイルスの発生源やアザミウマ類の繁殖場所となるので、除草を徹底する。なお、アブラナ科のタネツケバナは大分県で本ウイルス病の伝染源になり得ることが確認されている。
- (3) 罹病植物は二次伝染源となるため、速やかに埋没又は袋などに密封して処分する。